

金津一男さん宅

(松江市西尾町)



2012年度未完成予定の松江第五大橋道路(仮称)の建設現場近くの松江市西尾町に、金津一男さん60の住宅がある。昨年末に母屋の屋根瓦を独特の赤色の石州瓦に葺き替え、後方に見える島山の緑と、独特的赤茶色のコントラストが美しい。金津さんは「何とも言えない気品ある色」と満足そうだ。1934(昭和9)年に祖父が建てた母屋にはもともと赤色の石州瓦が使われていた。5年前に大屋根(おおやね)を葺き替えたが、「せっかくならすべての屋根の色を統一したかった」と残りの下屋根(げやね)を葺き替えた。石州瓦の独特の赤色は来待石を原料とした上棟によるもので「来待赤」と言われる。高温で焼き上げているため硬く耐寒性に優れ、「万年瓦」との別名もある。

窓から出すときの放熱のさせ方で見事なつやが生まれ、雪への耐久性も優れているといふ。

金津さんの家でも祖父が建ててから約80年間、風雪から家族を守ってきた。一言に石州瓦と言ってもさまざまな色があり、金津さんは「明るすぎず深みのある赤色が好み」と、新しくなった屋根を見つめる。「母屋と隣接する納屋は黒の石州瓦だが、次は納屋も来待赤にしたい」と話している。